

バラ園×八王子市美の文化資源を融合させた地域活性プロジェクトと提案 ローズガーデンエンジョイプロジェクト

A project and proposal to revitalize the community by combining the cultural resources of the rose garden and the beauty of Hachioji City Rose Garden Enjoy Project

Yamatan-Belle-Rose

山際花野，坂倉雛乃，森谷美紅，野口さらら，森田夏海，熊谷梨子

田村倭望，山本芽衣，大橋知佳

指導教員 富田知子，大西典子，加藤宏美，及川麻衣子

山野美容芸術短期大学 美容総合学科

八王子市には本学を含め小規模ではあるがバラ園が個人宅を含め数多くある。本プロジェクトでは、ローズを介した地域活性を目指している。今年度は本学の建学の精神である「美道」をテーマに加え、八王子の「美」の文化資源として八王子伝統型染を加えた活動を企画した。

キーワード：バラ ローズマップ 八王子伝統美 美容 型染め

1. はじめに

本学には、地域住民の方々に支えられているローズガーデンが2020年に完成し、現在では春と秋にとっても美しい花を楽しむことができる。八王子市の個人邸には、広い庭を活用したローズガーデンが多くみられる。私たちは、これらのガーデンの一部を紹介するマップを作製し、また美容とローズをテーマにした活動、地域企業との協働での企画等を行い、地域活性を目指している。

本学には、「美道」を学び、着付けや華道、裏千家道場であった茶室を利用した茶道にも受業で触れる。このことから、今年度は、桑都八王子の「美」の文化資源との融合も視野に入れた活動を行った。

2. 活動概要

1) 八王子ローズマップ：2022年先に記したローズガーデンや八王子市のカフェや菓子店、防災も意識した広域避難所を掲載した汎用性のあるマップを製作した。今年度は、マップを使用し散歩をした疲れをいやすために、足湯や温泉を掲載した。

ローズマップ裏面には、掲載施設の情報（位置情報もしくはガーデンの状態がわかるインスタ）がわかるQRコードを掲載した。

2) ローズにまつわる小冊子の制作：ローズは古

来より美容と心身への影響も期待される。そこで、バラの歴史や栽培方法、美容や食事に活用できる方法などを調べ、それらの情報を掲載した小冊子を制作した。

3) 食とローズ：八王子市菓子店森のこびと様と協働し、ローズをイメージしたメレンゲクッキーを制作、多摩市グラン・グルメ株式会社様とオリゴ糖を使用したバラの花びら入りのローズシロップを共同開発した。

4) 地域との連携：ガーデン整備にご協力頂くローズパートナー育成講座を本学で行った。そのパートナーの方々とつながるために、短大のカレッジローズの挿し木苗を作って頂きそれぞれも自宅で育てていただく企画を行った。NPO フェスティバルでバラに興味をお持ちのかたで、パートナーのSNSでつながった方にも苗をお分けし、生育状況の投稿や、本学の非常勤講師で、八王子花の音園長のバラ講座に情報等をお知らせすることでより地域の方と本学バラ園とのつながりを強化に取り組んだ。

5) ローズと観光：八王子交通事業株式会社様との協働でタクシーによるローズ邸ツアーを企画。京王観光株式会社様による、本学が企画した美容×ローズ講座と、八王子市にあるローズガーデン

を周るモニターツアーが実施された。

これらに加え本年度の企画の特徴としては八王子市の「美の文化資源」にも注目をした。

食に関する事項では、八王子市には古くから和菓子店が多く存在している。特に一つ一つ手で作られる上生菓子は、日本の美といっても過言ではない。今回八王子に工場のある榮太樓總本舗様に協働頂き、メンバーでデザイン案を出し、本学のカレッジローズ「mia-aiko rose」をイメージした上生菓子を学苑祭用として制作頂いた。(写真1) NPO フェスティバルでは市販されている「ど楽ど楽もち」にバラのプリントをいたものを制作いただいた。

また八王子市には絹の道もあり織物の歴史、また染の歴史も古い。八王子織物工業組合へ伺い、織物や染の歴史を学び織物の体験をした。

また八王子型染めでは染工房かほり様のご協力を頂きバラの染型を制作し、手ぬぐいを制作した。これはローズマップとも相性が良く、足湯等で使用できることを想定している。



図1.上生菓子：ミア愛子ローズ



図2.バラの八王子型染め

3. 現在の活動で見えた問題点

1) 上記に示した通り、バラを介した活動をおこなってきた。その中枢にあるのがバラ園であることを忘れてはならない。当初21か所のバラ園を掲載していたが、今年度は休園するガーデンもあり19か所となった。個人邸のバラ園は調査しきれていないのが現状である。また調査は、広い八王子では容易なことではない。

2) 現在八王子は「いちょう」のイメージが強く、

「バラ」のイメージは無い。このため企画した商品が八王子に定着することが難しい。

4. 提案

1) 近年バラ園の人気は高く、川崎市の生田緑地のバラ園では年間8万人を超える。八王子には広い緑地が多くあり、バラ園を作ることでより多くの人の利用が考えられる。本学のバラ園も地域の方のご協力で美しく保たれているが、バラ園の整備についてはボランティアの方々の力が欠かせない。そのためには有料化も考える必要がある。

2) 地域の個人邸のバラ園をより多くの方に楽しんでもらえる仕組みを考える必要がある。そのためには、市のホームページなどでアクセスできる個人のバラ園の登録システムを作ることで、現在見学が可能なガーデンが容易に見つけることができる。

3) 上記のような状況が構築されると、八王子とバラのイメージが強く結びつき、さらにバラに関する事業が活発になることが想像でき、今回私たちが行った企画商品も継続できる可能性が考えられる。

バラの嗜好は女性のみならず、育成家には男性も多い。「美」象徴であるバラを、絹織物を代表とする「美」の街桑都八王子市の第2のシンボルとして提案したい。

5. 謝辞

最後になりましたが、今回の企画の機会をくださいました、大学コンソーシアム八王子関係の方々、花の音園長下村先生およびローズパートナーの方々、榮太樓總本舗様、グラン・グルメ株式会社様、染工房かほり様、森のこびと様、八王子交通事業株式会社様、京王観光株式会社様、八王子観光コンベンション協会様に心より感謝申し上げます。